

重度片麻痺利用者のプログラムの検討

通所リハビリとして、どのようなアプローチが必要か

若手の意見

- * 成功体験を増やす。
- * 本人が気に入るような環境設定をする。
- * 少人数のレクに参加してもらう。
- * 妻と一緒にないかをやってみる。(家族を絡めての成功体験を増やす)
- * できないことを与えて、一緒に考えてみる。
- * 家族が困っていると伝えたらやる気が出てくるかも。
- * 「してみたい」ことに対して始めは環境調整をして、できる事から行う。
- * 趣味の合う人と交流を促していく。
- * 音楽演奏をしてみる。
- * 楽しみを持てるリハビリを行う。
- * 本人に役割を与えてみる。(集団体操の司会など)
- * 介助者側の方法を統一する。
- * 信頼関係を構築するためにこまめな声掛けやコミュニケーションをとる。
- * 趣味や好きなものから入って関係を築く。
- * 関係性を築くために、自分の話や相談をしてアドバイスをもらう。

本人とセラピストの「身体機能に対する認識のギャップ」を埋めるためにはど

のような発想、アイデアが必要か

若手の意見

- * 正のフィードバックと負のフィードバックの両方を取り入れる。
- * ニーズを再確認する。
- * 環境面へアプローチする。
- * 妻と良好な関係ならば、妻に指摘してもらう。
- * データとして通所当初と現在の状態を提示する。
- * 本人は悲観的な印象。
- * 奥さんと自主トレをしてもらう。
- * 1つの大きなゴールに対して段階的に小さな目標を立ててクリアしていく。
本人にも説明しやすく、理解が得られやすい。
- * ほめながら現状を伝える。
- * 回数を提示し、本人にわかりやすいように行う。
- * プライドをうまく利用する。
- * カレンダーなどを利用してリハビリの実施状況を可視化することで自信につなげる。
- * 信頼関係を築いたうえで、本人からフィードバックをもらうようにする。

通所リハビリとして、どのようなアプローチが必要か

中堅の意見

- * 個別リハビリ以外で、来所する目的を作る。
- * ケアマネから情報収集をする。
- * 小グループ活動を行う（同じ経験、片麻痺男性など）
- * 趣味嗜好評価を取り直す。
- * 若手を育成してほしいと、本人にベテランから行ってもらう。
- * 本人との信頼関係の構築
- * 訪問リハビリとの連携をする。

本人とセラピストの「身体機能に対する認識のギャップ」を埋めるためにはど

のような発想、アイデアが必要か

中堅の意見

- * 「できる」を積み重ねる。成功体験を積み重ねる。
- * セラピストを固定して対応する。

通所リハビリとして、どのようなアプローチが必要か

ベテランの意見

- * 参加と活動につなげるには・・・
- * 家で生活したいといっても「もし、奥さんがいなくなったらどうするのか」と本人に危機感を提示する。
- * 今よりもよくなった時のことも提示する。
- * いついつまでに〇〇しませんかと提示してみる。
- * Yes マンではリハビリである必要はなさそう。
- * 何が問題なのか。
- * 何のためにデイケアを使っているのか。維持目的ならデイケアでなくても・・・
- * デイケア使うなら目標を持つこと。本人の合意と本人と協力して行う。
- * Need から「あれやだ、これやだ」ではデイケア使う理由がない。
- * Need 分析をしたときに、なぜプログラム改善をしなかったのだろうか。
- * 時間はかかるが、既存のプログラムに少しずつプラスし変更していく。

本人とセラピストの「身体機能に対する認識のギャップ」を埋めるためにはど

のような発想、アイデアが必要か

ベテランの意見

- * 仙骨すわりの姿勢を修正し、座骨面に重心をかけるように股関節を屈曲していく。
- * 大柄なので少しやせてもらいたい。
- * 22年間も買介助の状態を経験してきている。
- * 方法やポイントを提示しても自分で覚えようとしてくれない。
- * 上記から、なかなか変えられない。